



大森六中だより

令和元年 12月

大田区立大森第六中学校

校長 松尾 廣文

TEL 3726-7155

朝礼「六中平和の日に寄せて」

11月25日



先日、大森六中の卒業生である堀井太郎さんが本校に来られました。そして、著作である「しあわせになろうね 私的昭和歌謡考」という本を頂きました。

この本は、現在小学館から発行されている「週刊ポスト」に毎週連載されている「昭和歌謡といつまでも」というエッセイをまとめたもので、歌謡曲への蘊蓄、解釈、分析が述べられており、堀井さんの博学多識には、驚かされました。

歌謡曲の作詞を数多く手掛けた「大木惇夫」の紹介の項では、作曲家「乗松昭博」とのコンビで、多くの学校の校歌を作っていることにも触れています。

堀井さんは、その代表的な校歌として、赤松小学校と大森六中の校歌を挙げています。愛校心の発露が感じられて、微笑ましく読ませて頂きました。

その堀井さんのエッセイの中で、ちょっと気になることがありました。

戦後流行った歌で「お山の杉の子」という童謡があります。

椎の木林のすぐそばにある小さな禿げ山は、みんなの笑いものでした。ある日お日様が、杉の子に目を覚ますよう声をかけたところ、杉が育って、みんなの役に立つ山になったという歌詞です。

敗戦直後の打ちひしがれた焼け跡に佇む人々にとっては、杉の子＝復興の象徴になったのかも知れません。

しかし、堀井さんの文章では、戦後、後半部の歌詞を改めたものが現在の「お山の杉の子」であるということでした。

戦前の歌詞を調べてみますと、「誉の家（戦死された軍人の出た家）」、「傷痕の勇士（戦争で負傷した兵士）」、そして、成長した杉は、大きなお船、兵隊さんを運ぶ船になったという内容の歌になっています。

調べてみますと、この曲は、戦争で父親を亡くした子どもを勇気づけるという目的で、昭和19年（1944年）に少国民文化協会の懸賞募集で選ばれた歌であったということでした。

戦前は、子どもたちの歌う童謡の中にも、戦争が身近に描かれていたのだなということが気付かされました。

戦後、家を焼かれ、親を失った子どもが街にあふれていたそうです。

昭和23年（1948年）の「戦災孤児一斉調査」では孤児の数は123,511人であり、子どもの餓死、凍死が相次いだと11/9付の朝日新聞「サザエさんを探して」には載っています。

野坂昭如原作で、ジブリ映画にもなった「火垂るの墓」の兄妹のような悲劇は、日常のことであったことが窺えます。

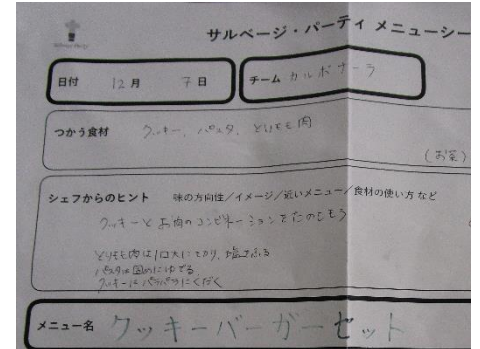
11月は、六中の敷地に見つかった防空壕が保存された月。六中平和を考える会では、内閣府の国際協力本部事務局より一柳あずささんが来られ、「SDGs16 平和と公正を全ての人に～世界の現状を知り、自分たちができることを考える～」と題したご講演頂きました。

皆さんの心に平和への希求の念が大きく育つことを願っています。

使い切れない食品を救い出そう

サルベージパーティー

12月7日（土）、食品ロスを防ぐため各家庭にある食べきれない食材を持ち寄り、大田区環境計画課の協力のもと、サルベージパーティーを開催しました。当日は前後期生徒会・保健給食委員会・技術家庭科部の26名が集まり、クッキーバーガーセットやフルーツサルサなど5つのメニューを作ることができました。



調理前には、集まった食品からメニューや段取りを確認。



集まった食品が限られているので、作り方にも工夫が必要。



協力しながら調理を進め、彩り豊かな料理が完成。



おいしくできた料理を試食し、最後に振り返りを発表しました。

セーフティ教室

最近、SNSのトラブルや事件の報道を耳にすることがあります。大森第六中学校では、「携帯電話・スマートフォン等、情報リテラシーについて学ぶ」と題して、12月9日（月）の4校時にセーフティ教室を行いました。NTTドコモの北村様を講師にお招きしてお話を伺いました。

最近ではYou TubeやInstagram等、簡単に動画や写真をアップできるようになりましたが、そのためにトラブルに巻き込まれる事例が紹介されました。写真に写ったマンホールや賞状から住んでいる地域や個人が特定されてしまうこと。友達に勝手にアップされた写真でトラブルになるケースを紹介してくれました。

また、LineやFacebook等のコミュニケーションアプリでは、短い文章でのやりや、表情がわからない文章だけのやり取りでは誤解が生まれ易いこと。相手にも都合があるので、返信が早く来ることを期待しすぎないこと。会って会話をすることも大切なこと。睡眠や勉強時間を削らないために、友達と時間などのルールを決めることも大切だと話してくれました。

冗談のつもりで送った投稿や書き込みによる炎上、イタズラの犯行予告は「偽計業務妨害」という犯罪になること。過去の投稿によって名前や個人情報が漏れて周りに迷惑をかけること。一度投稿したものは残るので将来にも影響が出ること。インターネットは匿名ではないので、書き込みには責任がついてくることを話してくれました。

SNSで知り合った人に安易に会いに行き、事件に巻き込まれる例や、SNSで知り合った人に自撮り写真や個人情報を送り脅迫された例などを教えていただきました。最後に、困ったときには一人で悩まないで、保護者や先生に相談することが大切だと話してくれました。



ある卒業生からのコメント

2年前の話になりますが、私たち教職員も健康診断があります。池上教育会館で眼科検診を受診しようとしたとき。年輩の眼科医師がいきなり「スマートフォンは気を付けるように子供たちに言ってくれ。」と話しかけてきました。「暗がりであんな小さい画面を見ている子供たちを見ると背筋がゾッとする。」「子供たちの20年後の将来が心配だ。」と話してくれました。そして、医師は「私は六中卒業生で、小山台から医大に進学したんだ。」と言いました。残念ながら名前は失念しましたが、やっとあなたとの約束を果たせました。この街には生徒を見守る、優しい大人がたくさんいます。

持続可能な社会の担い手づくり

大森第六中学校研修ユネスコ委員会

ユネスコスクール全国大会に参加して

11月30日(土)広島県福山市立大学にて、ユネスコスクール全国大会が開催され、本校から2名の職員が参加しました。



バラのまち「福山」は新幹線で品川から3時間ほどですが、駅から福山城を眺めることができ、新幹線の駅はきれいに整備されていて近代的な駅ビルもありますが、少し離れたところのどかな風景が続きます。

一変、福山市立大学の会場は近代的な校舎で多くの参加者が熱気に包まれていました。新学習指導要領が小学校は来年度から、中学校は再来年度から実施され、持続可能な開発のための教育(ESD)が盛り込まれ、「持続可能な社会の担い手をどう育てるのが注目されています。本校がESDに取り組始めた頃の8年前の大会では参加者もそれほど多くはなく、さみしいものでしたが、今では全国のユネスコスクール加盟校が1000校を超え、申請中の学校も数多く、今後もうなぎ登りに増える見込みです。

大会中、とても注目された発表は、広島県教育委員会教育長 平川理恵氏による「ユネスコの理念とESD」の中で紹介された『ワールド・ピースゲーム』です。平和な社会を築くために、中高生の30名が4つの仮想の国に別れ、役割を持ち、課題解決して行くワークショップで、5日間のプログラムの中で、討論しながら、平和な社会を築くためには何が必要なのかを考えるプログラムになっています。



その討論の中で生徒達の気づきや変容が、実際に登壇した中高生の代表者達4名によるシンポジウムで発表されました。普通の中高生が5日間のプログラムを終了して、今の世の中の問題点を自分ごととしてとらえ、身近な課題を解決していくための行動力や判断力を獲得し、自信に満ちた表情で、会場1000人近くの

教育関係者が聞いている中で、堂々と発表していました。さらに、その中の2人が、自分の夢を語り、実現するための努力することを正々堂々と誓って、終了しました。

現代の中高生は、多くの地球課題を自分ごととしてとらえ、解決するための行動を起こすことに、臆することなく、立ち向かう力が備わってきていることに、感動し感心しました。

スウェーデンのグretaさんが、温暖化防止の考えを国連で堂々とした態度で訴えたことで、世界中の大人達が驚き、反省をし、これから生きる未来の地球市民のために何ができるかを真剣に考えなければいけないと思います。

六中では、食品ロス削減メニュー考案から始まった活動が、フードドライブ、サルベージパーティーにつながり、学びから行動に活動が発展しています。



また、平和教育では、防空壕発見から、広島市長からアオギリ2世を送っていただき、平和の歌、平和カルタが生まれました。今年度、横浜市の中学校2校、多摩市立の中学校、私立高校と交流し、「平和から生まれる文化」についてのワークショップに代表生徒が参加します。また、新しいつながりが生まれる予感のする活動です。

ユネスコスクールのキーワードは「つながり」です。つながりから生まれる活動を大切にしていきたいと考えています。

落ち葉掃き いよいよ納会

校庭の落ち葉掃きもいよいよあと1週間あまりとなり、24日には納め会で焼き芋を作ります。今年は職場体験でお世話になっている幼稚園や保育園、小学校に呼びかけました。多くの参加が見込まれます。